

# ゆかたの着付け

## 肌襦袢、ステテコの上に直接着ます

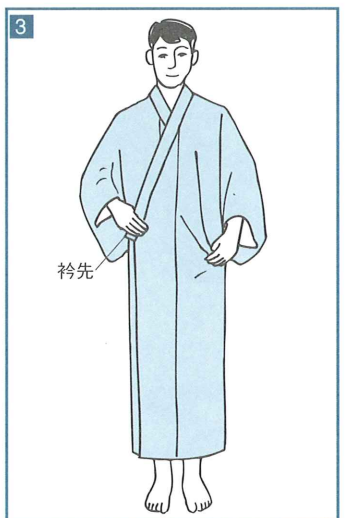
男のきものには女性のきものにあるおはしりがありません。あらかじめ身丈にあわせて、仕立ててあります。そのため着付け方に違いがあり、より簡単になっています。



ゆかたをはおったら、両手で襟を持って、ゆかたの背中心が背中の真ん中に来るように体にぴったりと付けます。衣紋は抜きません。



次に下前をやや引き上げながら、襟先が腰骨に付くように左腰に入れ込みます。



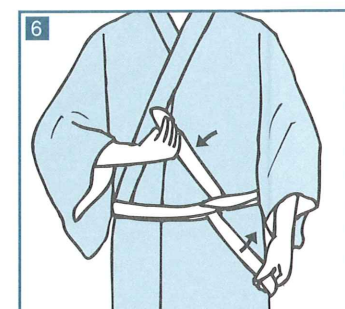
同様に上前も襟先が右の腰骨に付くように合わせます。



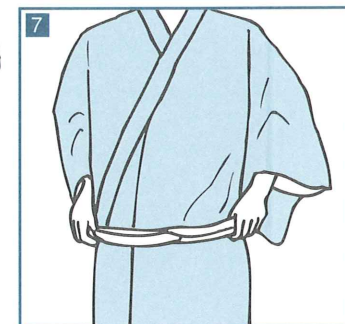
右手で上前を押さえたまま、腰紐をとりまわります。腰紐はへそ下(丹田)にあて、前から後ろに回し、交差させて軽く締め、また前にもどします。



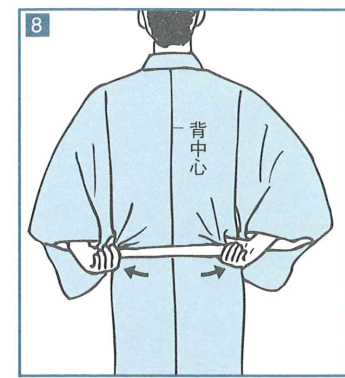
腰紐は腰骨を意識して巻き、体の中心を避けて、一度結びます。



右手で腰紐をもう一度からげてからねじります。(または腰紐をもう一度結んでからねじります。)



ほどけないように紐の端は腰紐に挟み込みます。



腰紐を締めたら、背中心はまっすぐに、前後のしわを両脇に引き寄せてきれいに整えます。



締め上がりは、前がへそ下で前下がり、後ろは上がり気味に。



### 8

男性のゆかたは襟が首に沿って、衿元をきちんとしめまわります。上半身には少しゆるみがありますが、下半身はすっきり、全体にきりりと装いましょう。

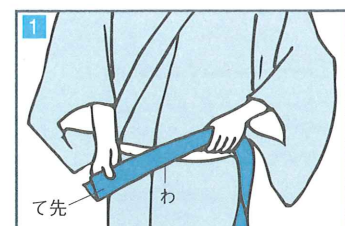
### 【帯の結ぶ位置】

#### 帯結びは前下がり、後ろ上がり

「きものは、腰で着る」——そんな言葉があります。腰で着るとは、気力の湧くつぼの臍下丹田(せいかたんでん)にしっかりと腰紐や帯をあてた、男性たちが祖先から受け継いできた着方です。帯はへそ下を目安に結ぶことを工程ではお伝えしているのはこのためです。横から見ると、前は下がり、後ろは少し上がり気味に、図の位置で締めると帯が安定します。

# 角帯の結び方

## きりりとした印象の貝の口結びを覚えましょう



帯を30~40cmほど取り、半分に折って、て先とします。帯をむすぶときにはわを下にして。



て先を真ん中にして、へそ下を目安に帯を胸に押し付けるようにひと巻きします。



て先を上にして、帯をもうひと巻きし、て先とたれを引いて軽く締めます。



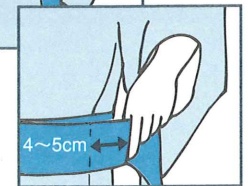
胸の真ん中にて先を押し付けながら、体にフィットするように、三巻き目を巻きます。男性は三巻きします。



て先を引き出し脇にもどしながら、て先とたれを引いて、帯を軽く締め、体にフィットさせます。



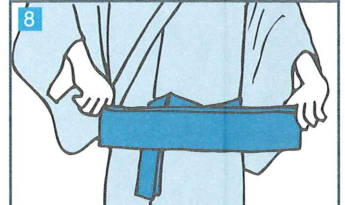
て先を前にもどし、たれを折り返す位置を決めます。(脇縫いから4~5cmを目安に。)



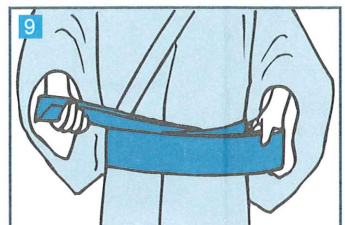
4~5cm



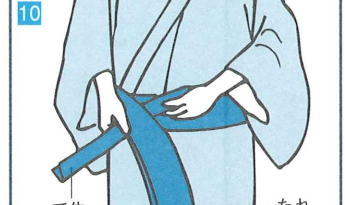
折り返し線からたれを内側に折り込みます。



折り返したたれは全体がゆるまないようにきれいに重ねます。



て先を体の中心に引き出します。



て先の上にたれを重ね、たれが上に来るように結んでいきます。



て先とたれを引き、しっかり締めます。



ゆるまないように結び目を立てます。



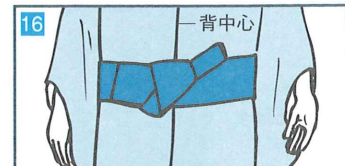
下になったて先は結び目へと斜め上に折り上げ、たれをかぶせて、もう一度結びます。



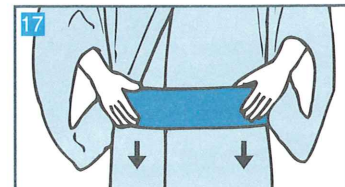
帯はゆるみを残さないよう形を整えます。



右手で結び目を、左手で胴帯を持ち、時計回りに帯を後ろに回します。



貝の口の中心はきもの背中心からややはずします。



しわをのばし、両親指をはさんで帯を下げます。前下がり、後ろ上がりの安定した形になります。



### 18

粋な感じの貝の口結びのでき上がり。前帯はへそ下が安定した位置です。